



## 信頼を継承して

弥彦村 羽生信二さん(76歳) ミユキさん(72歳)

2人は弥彦神社前の大通りからやや奥に入った一角で、酒の小売り業『弥生商店』を営んできた。先代夫婦がこの地で醤油と味噌の販売から始めた店に、酒の卸問屋社員として出入りしていた信二さんが見込まれて21歳で養子に入った。4年後の昭和43年、信二さんは裏の自宅の娘さんと結婚。それがミユキさんだ。以来2人は酒以外に、野菜・鮮魚と品数を増やし、ミユキさんが店先で、信二さんは配達にと懸命に働いた。やがて小規模ながら地域に欠かせない総合食品店になった。弥彦山の山裾だから冬は雪も多いなかで、常にお客さんに声かけながらの商売は信頼された。特に近年は高齢者が増えて、買い物というよりお茶を飲みながら話をしに来る人の方が多いという。誠実な信二さんは商工会、法人会、税務署酒販組合等々の役員を歴任し、明るく社交的なミユキさんも商工会婦人部長として活躍した。しかし時代の流れか地域で酒の需要は減り、食料品販売は大型スーパーに取って代わられた。

(2ページに続く)

# 妙の光

復刊106号



## 行事案内



### 春のお彼岸中日法要と歓送迎会

3月21日(木)祝

午前 10時半 墓地法要  
11時 春季彼岸法要…本堂  
午後 12時半 鎌田上人、田村圭亮さん歓送迎会  
(参加費3,000円 要申込み)  
今回はお彼岸に合わせて、退任される鎌田上人と、新任の田村さんの歓送迎会を行います。  
※詳細は別紙ご案内をご覧ください。



### ご妙判「お大会」

お稚児さん募集

4月29日(月)祝

午前8時半受付開始  
江戸時代から続く伝統行事です。別紙「ご妙判お大会のご案内」があります。お気軽にお参りください。  
合わせて出仕のお稚児さんを募集します。  
※詳細は別紙ご案内をご覧ください。



### 月例信行会 毎月第一日曜日

4月7日・5月5日・6月2日・7月7日

午前7時～9時  
会費 千円(各自賽銭箱にお願いします)  
予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。  
お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータイム等があり、交流の輪も広がります。

### 月例ボランティア 毎月15日

午前9時～11時半 午後1時～3時  
境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。



### お寺でヨガ 毎月第3木曜日

4月18日・5月16日・6月20日

時間 午後2時～3時15分  
参加費 一回700円  
持ち物 ヨガマット、もしくはバスタオル  
講師 ノリコさん  
※どなたでも参加できますが、予約制ですのでその都度電話での連絡をお願いします。



### 連続浄土講座

第6回、第7回を予定しておりましたが、日程の都合上、秋まで延期としました。

### 春の一日研修

5月12日(日)

午前9時～午後3時30分 参加費4,000円(昼食付)  
申込〆切 5月5日  
数珠の持ち方からお経の読み方まで。初心者と複数回参加者をクラス分けするので、どなたでも心配なく参加いただけます。事前に電話等で申込をお願いします。



### あ と が き

日本の春は、出会いと別れの季節です。主旋律を縦横に奏でる先代住職(現院首)のもとで、長い間常に変わらぬリズムを担当していた鎌田上人が、ついに妙光寺から旅立ちました。[インタビューをご覧ください]また寺務所と受付が現在改装工事中。春にはすてきな受付に、参拝者休憩室も完成します。どうぞ、お寺に足をお運びください。  
(新倉理恵子)



弥彦村 羽生信二さん(76歳) ミユキさん(72歳)



### 夫妻で役員に

妙光寺は以前から信二さんに、弥彦地区の檀徒お世話係を、さらに10年ほど前から役員をお願いしてきた。そして昨年の定年までの6年間は、役員会の議長を務めていただいた。75歳になった信二さんが定年で役員を退いた昨年、「若い女性住職だから、今度は私がやり

ます」とミユキさんが役員を引き継いでくださった。

商売が忙しくてもお盆のお参りや会議は欠かさず、夫妻で総本山身延山団体参拝にも参加した。信二さんは標高2000mの七面山に登山参詣したが、ミユキさんは「体力的に無理だった。もっと若い頃に参加すれば良かった」と思いうす。4年前のインド仏跡巡りに

も夫妻で参加して、今度は信二さんが「初めての海外で緊張したせいから行ききの機内から下痢が始まり、肝心の霊鷲山に登れず途中で諦めたのが残念だった」と語る。

### 子供たちが支店を

17年前、弥彦神社鳥居前の旅館が廃業して、土地を買わないかとの話が舞い込んだ。店を手伝っていた長女久美子さんが積極的で、買った土地に大工さんから借りたプレハブで支店を開いた。県内の地酒を並べたら観

光客に人気。元の地主から「こは商売にはいい場所だよ。羽生さんでなければこの土地は売らなかった」と言われた。

そのころ長男雅克さんは、大学の醸造学科を卒業し、ワインを学びたいと入社した山梨のワイナリーで修業3年目だった。急遽呼び戻された雅克さんは、プレハブ店舗を新築するなら「カーブドッチワイナリー」を設計したドイツ人建築家カール・ベックスさんをお願いしたい」と主張。着工寸前に業者を変更し、現在の支店「酒屋やよい」が完成した。築200年の古民家を移築再生した店舗は好評で、隣の喫茶店までカールさんの設計になった。

### 2人の築いた信頼が基盤

同じ頃雅克さんは大学の後輩である紘子さんと結婚。結婚式には県内の名だたる蔵元の社長と共に院首も招かれた。今は雅克さん夫婦と久美子さんの3人が、力を合わせて支店を切り盛りしている。

雅克さんは昨年12月、JRの特別列車内の日本酒試飲コーナーに、

小売店として初めて参加した。支店2階にある日本酒の試飲コー

ナーが評判になり、JRから声がかかった。雅克さんは、このような新しい試みに、積極的に取り組んでいる。国の事業継承の補助金を受け、さらなる新規事業も準備中だ。

「父と母は、商売は勿論のこと業界の役職やお寺のことまで、常に一所懸命取り組んできました。その信用のおかげで私たちが今、商売を続けられるんです。一時は客足の減った本店を閉鎖しようかと考えました。その方が補助金も多いからです。でも高齢者が増えた地区で店の灯りを消してはいけません。今までのお客さんの行き場所をなくしてはだめだと思いました。

そのとき本店も残せる方法として新規事業を思いつきました。父の実績で営業許可も順調に降りそうです。県内の多くの蔵元さんと直接取引できて、有名銘柄酒でも価格上乗せなく販売できるのも、両親が築いた「弥生商店」の看板のお陰です。とても感謝しています。」爽やかな笑顔がまぶしかった。

(院首記)

## 安 穩

# 「迷惑」と「縁起」

小川良恵

### 安穩廟の契約で

先月号で、安穩廟の増設をお伝えしました。すでに空きがなくなっていたところに、お問い合わせが多かったことから、昨年春に40区画を増設したのです。暮れから年明けにかけて新規の申し込みが続き、春頃にはまた空き区画が無くなる見込みです。

安穩廟は、規則として面談をした上で、の契約をお願いしています。私も住職を交代してから、面談の機会が増えました。経緯や事情は様々ですが、ほぼ皆さまがおっしゃるのが、「子供や親族に迷惑をかけたくない」という契約理由です。妙光寺に限らず、永代供養墓を求める方の多くがこうした悩みを抱えているとい

### 「迷惑」をひもとくと

「迷惑」という言葉を辞書で調べてみると、「ある行為がもとで、他の人が不利益を受けたり、不快を感じたりすること」とあります。そして仏教的に見れば、「迷い」は「悟り」と相対する言葉で、「悟り」の反対の状態を表

しています。「惑う」の方も、「悩み煩う」という意味です。つまり、「迷惑」は、「悟りが得られず、悩み煩う」状態ということが出来ます。

法華経の中に次のような文句があります。

「我等三苦を持つての故に、生死の中にいて、もろもろの熱惱を受け、迷惑無知にして小法に樂著せり」

『私達は、三つの苦しみが原因となって、生まれ変わり死に変わりする過程で様々な苦悩に苛まれ真実ではない教えに執着している』という意味です。

「三つの苦しみ」というのは、世の中は嫌なことばかりだと感じる苦・好きなのを失ってしまうことで感じる苦・世の中の無常を見て感じる苦の三つです。その三苦のために、私たちは「迷惑」——悩み煩ってしまいます。つまり、仏様の教えを理解できず、道理が分からずに苦しんでいる状態を、「迷惑」といったのです。

### 「縁起」

すべての人やもの、ことは、何一つとして、それひとりでは存在しておらず、かならず、他のものやこととの関係において成り立っています。これを仏教では「縁起」と言います。「迷惑」は、「縁起」

を理解できずに苦しんでいる状態と言えるかもしれません。

「縁起」を英語に訳すと、なかなか難しいのですが、「一番適切な言葉は、"thanks to you." となるそうです。"thanks to you." を逆に日本語にすると、「おかげさまで」になります。お互いがお互いの「おかげさま」の上に私たちは生きています。つきつめてしまえば、人に迷惑を掛けずに生きている人はいません。家族や友人、大切な人が困っている時苦しんでいる時に、「面倒くさいな……迷惑だな……」などと思うでしょうか。「助けないでしようか。」

### 妙光寺も「おかげさま」で

新しくお寺に来られた方はまた、本堂や境内を見て「立派なお寺ですね」と言ってくださいます。営利企業ではないお寺が、こうした伽藍と妙光寺という場を維持管理できるのは、檀信徒の皆さんの「おかげさま」です。だからこそ、皆様が同等に、またと一緒に気持ちよくお参りできるのです。妙光寺とのお縁をきっかけに、「私」という存在が、けて「迷惑」なものではなく、「縁起」の一部なのだということを意識していただければと思います。

## ◆マレーシア、ペナン島「一念寺」参拝の旅 2月22(金)～26日(火)

世界各地にある日蓮宗寺院の中でも、今一番活気あるのがペナン島の「一念寺」。総勢25名で団体参拝旅行に行ってきました。妙光寺とも親交の深い伊藤住職や現地檀信徒の皆さんとの交流、食と歴史の街イポー観光など、とても有意義な旅でした。



一念寺で挨拶をする住職



人気の「原石鍋」店にて夕食



一念寺の信徒さんと記念写真



手作りのランチを振舞ってくれた檀信徒のみなさん



2ヶ寺合同の法要



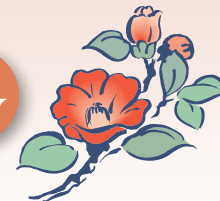
イポーの洞窟寺院にて



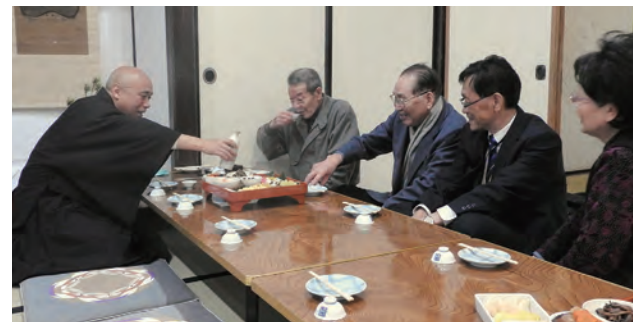
伝統のニョニャ料理を味わう



## 寺のうごき 冬



### ◆元旦



初詣と住職へのご挨拶、法事の予約などで今年も賑わいました。お急ぎでない方にはお酒のご用意も…。

### ◆角田お経会 2月2日



妙光寺の地元、角田地区の檀信徒さんによる恒例のお経会。本堂で散華(さんげ)を撒き、声を合わせてお経を読みます。

### ◆僧侶研修会 2月12～15日



良恵住職と妙光寺僧侶、鎌倉から円久寺の松脇住職、大分から妙瑞寺住職長男の菊池宣全くんらが参加しての研修会。4日間にわたる講義を妙光寺院首が務めました。

### ◆除夜



大晦日、妙光寺で除夜の鐘をつき、本堂で掌を合わせ新年を迎えた人たちは180人を超えました。

### ◆厄除け祈願祭 2月2日、3日



今年厄年にあたっている人を中心に、合格祈願や安産祈願など、2日間で40名がお加持を受け、お札を頂きました。

## ―鎌田義明上人に聞く―

# 檀信徒のみなさんに支えられて



鎌田上人は、人生の半分以上を妙光寺で過ごしてきました。そしてこの春、長岡市中心部のお寺に、住職として迎えられることになりました。妙光寺を「執事」として支えてきた日々と、これからの抱負を聞きました。

**Q** そもそも、なぜ中学生で妙光寺に来ることになったんですか？

**鎌田** 私の実家は、秋田県八郎潟のそばの町で、板金屋をしています。私は小さい頃に小児喘息になって、母は大変苦労したそうです。日蓮宗の信仰が深かった母は、私を近くの尼さんのところに連れて行って鍼灸の治療をしたり祈祷をしてもらったりしました。おかげでものすごく頃には健康になりました。中学2年の夏、その恩返しにお寺で手伝いをしないかという話になって、その尼さんの紹介で来たの

が妙光寺でした。母が朝晩お経を読むのを聞いていたし、修行生活というもののへの興味もあったので、夏休みの1カ月間を妙光寺で過ごしました。院首さま夫妻は結婚したばかりで、お祖母さま（院首の母）もまだお元気でした。奥さま（なぎさ夫人）は臨月で、夏休み後の9月に良恵さんが生まれました。

**Q** それから毎年通うことになったんですね。

**鎌田** 冬休みも、春休みも、夏休みもずっとです。1人で特急「いなほ」に乗って、

妙光寺に通いました。親孝行の気持ちもありましたし、高校に入るころにちょっと遊んでしまいうような時期もあって、休みにお寺に行つていれば大丈夫だという思いもありました。初めの頃は、掃除をしたりユースホステルの手伝いをしたりしていたんです。

**Q** お坊さんになろうと決めたのは、いつですか？

**鎌田** 高校1年の夏です。その時のことは、よく覚えています。弥彦の方にドライブに連れて行つて頂いたんですね。奥さ

まが車を運転して、院首さまと私が後ろに座っていました。その車中で「どうするんだ？」と聞かれたのです。「お坊さんになるか？」と聞かれて、「なります」と答えました。それからお経の練習をするようになつて、高校2年の時、妙光寺で得度式をしました。その後、千葉県誕生寺の度牒交付式に行つて正式に日蓮聖人のお弟子になったのですが、そのために剃髪したので、すごく嫌でした。タイムシグ

悪いなあと思いました。

**Q** 嫌なことは、それくらいだった？

**鎌田** そうなんです。高校の先生にも「お坊さんになります」と言つて、人と違うことをする嬉しさもありました。運命を受け入れた、という気持ちでした。

**Q** 高校を卒業してからは、どうしたんですか？

**鎌田** 立正大学に入学して、池袋のお寺から大学に通いました。ところがそこから決意が揺らいでしまつて、結局大学は中退してしまつたのです。別な仕事もやってみたいと考えたりして、埼玉の焼き肉屋で1年くらい店長候補として働きました。それはそれで楽しくもあつたんですが、ずっとこうしているのは違うなとも思っていました。そうしたら院首さまから「覚悟を決めろ」と言われて、妙光寺に戻らせて頂くことにしたのです。一九九三年、23歳の時でした。

**Q** 本堂を建て替える前の頃ですね。

**鎌田** 客殿は新しくなりましたが、本堂は古いままでした。今の事務室が、私の部屋でした。境内もまだまだ整備されていなくて、三重塔の池を重機で掘つたりしました。

**Q** 重機も使えるんですか？

**鎌田** はい。車両系建設機械という重機

の免許が必要だというので取りました。それから団体参拝に行くために大型の免許も取りましたし、ついでに大特も取りました。妙光寺に来なかつたら取らなかつたでしょうね。池を整備したりするのは、おもしろい経験でした。

**Q** 妙光寺は忙しいお寺だから、大変ではありませんでしたか？

**鎌田** 大学時代にお世話になつた池袋のお寺も、とても大きくて忙しいお寺でした。私はそこと妙光寺しか知らないんです。だから私にとってはこれが普通で、大変と思つたことはありません。大勢の人が来て用事も多いけれど、出会いもたくさんあります。20代の頃は新潟大学の学生がムササビやタヌキの調査に来ていて、学生が来れないときは私が調査していました。夜もライトをつけてカメラを持って撮影したりして、暗い境内を歩きまわつて驚かれたりしました。楽しかったですね。

**Q** 大荒行にも2度行きましたね。

**鎌田** 本当に大きな経験でした。初行は一九九六年で26歳の時です。同じ年の6月に信行道場に35日間行きまして、その後急に行かせてもらえることになったんです。もちろんやつてみたいとは思っていました。何の準備もないまま、とにかく辛かったです。まるで暗闇を手探りで歩いているような感じです。さすがに胃が痛くなつて、それも胃の中に針金が入っているよう

な痛みでした。しかも私の年の遠壽院の荒行は4人だけだったので、食事などの当番もすぐに回つてくるし、今もあの時の辛さをよく思い出します。初行は達成感はありませんでしたが、今思えば何もわかつていませんでした。再行は13年後です。39歳でした。その時には、本当にいろいろなことがわかりました。戸田伝師のおっしゃることも再行ではよくわかりましたし、伝師の気や念の力も強く感じました。何より、周りの人に支えられてこそ行があるんだと痛感しました。

**Q** 妙光寺の生活で印象深いことはなんですか？

**鎌田** やはり娘さん達の成長ですよ。良恵さんが赤ちゃんだったころ奥さまが車で出かける時に、私が良恵さんを抱いて助手席に乗つて行つたことがあります。とにかく泣いて泣いて大騒ぎで、でも私もあやすこともできなくて、泣かせながら行きました。綾さんと玲さんを両脇に抱いて、同時にミルクを飲ませたりもしました。私は娘さん達と一緒に育つたような感じがします。だから、奥さまには本当に支えて頂きました。私が抱つてしていた良恵さんが住職になったわけですから、本当に良かったと思っています。

**Q** そしてこれからは鎌田上人も住職になるんですね。

**鎌田** 長岡市稽古町の法華寺というお寺です。先代の住職が急に亡くなつて、90

歳の現住職が代務として入っている寺です。実は、亡くなった先代は私の同期の方なのです。少しずつお経まわりで檀家さんのところに伺つていますが「嬉しい。待っていますよ」と言ってもらえたりして、準備に忙しかつています。院首さまを見て学んできたことを、自分なりに生かしていきたいと思ひます。

**Q** 院首さまから学んだことは大きいですが？

**鎌田** もちろんです。院首さまは、あらゆることを考えつくりおられます。私が良いと思つたことも、院首さまに指摘されると確かにその通りなのです。法華寺でも、まずは院首さまのように檀家さんたちと中身の濃いお付き合いをしていきたいですね。妙光寺でしているように、檀家さんの台帳を作るところから始めるつもりです。そして、足を運んでもらえる寺にしたい。妻の久実子も「休みの日は長岡で一緒に頑張る」と言ってくれています。

**Q** 妙光寺に鎌田上人がいないのは、心細い気もしますが…

**鎌田** 大丈夫です。卒塔婆も、五百本くらい書いて置いています。もちろんこれからも、妙光寺にお手伝いに来ますよ。私は妙光寺の檀信徒さんたちに育てていただきましたから。

長岡でも頑張ってくださいね。ありがとうございました。

（聴いた人 編集部・新倉理恵子）



佐藤上人は  
継続して勤  
務します。宜  
しくお願  
い  
します。



今年を送り盆——8月24日  
フエスティバル安穩以来30年目となる  
今年の『送り盆』は8月24日(土)です。  
トークのゲストに「わたしの終活登録」  
制度を始めた横須賀市福祉部の北見万  
幸さん。音楽ゲストに『鼓童』の太鼓と  
篠笛が決まりました。

人事異動  
新任の田村圭亮さん  
インタビューで詳しく紹介しましたが、  
鎌田上人が県内長岡市の法華寺住職に  
就任が決まり、2月末付で妙光寺を退  
任しました。  
法華寺は長岡市の中心部にあり住職  
不在期間がしばらく続きました。この間  
お手伝いを代務住職から依頼され、4月  
7日付で正式に住職に迎えられること  
になりました。今後も行事等妙光寺の手伝  
いは継続します。  
後任に新潟市西堀法雲院の長男で田  
村圭亮さん(34歳)が、2月1日から勤務  
しています。高卒後会社員として働いて  
きましたが、2年程前から僧侶を志し現  
在は見習い中です。4月15日から35日間  
の修行道場を終えた後、正式な日蓮宗  
僧侶資格が与えられます。それまでは研  
修生として、その後役僧として勤務しま  
す。詳しい紹介は次号でいたします。な  
お

事務室改修工事中  
人事異動に合わせて、大玄閣協の受付  
と事務室を改修工事中です。印刷機・コ  
ピー機・パソコン等の機械が増えて事務室  
が以前から手狭でした。またお参りの皆  
さんが気軽にひと休みできる場所がな  
く、ご不便をおかけしています。そこで受  
付と事務室を一体化し、さらに玄閣から  
直接入れる小さな休憩室を受付脇に新  
設します。ご利用ください。

参道及び山門調査  
俄かに浮上した山門の耐震化工事の  
必要性で、懸案の参道舗装工事が遅れて  
います。山門工事の方針が立たないと、  
参道と山門の取り付け方法が決まりま  
せん。山門は国の有形登録文化財です  
で、歴史的建造物の専門家に山門の改修  
方法の調査を依頼しました。結果を受け  
てから参道工事着工の予定です。



## 歓送迎会

鎌田上人と田村さんの歓送迎会を、3  
月21日のお彼岸法要に引き続き行いま  
す。詳細は別紙ご案内の通りですので、  
是非ともご参加ください。

## 土地購入

山門前の池庭の土地は地区の共有名  
義ですが、先々代住職の時代から妙光寺  
所有と認識してきました。しかし先ごろ  
共有名義から自治会名義に変更され、こ  
れを機に売買契約を求められました。役  
員会議で審議して、価格交渉のうえで購  
入しました。他の所有者や境界の不明瞭  
な隣接する土地に関しても、将来を見据  
えて暫時整理を進めています。



# 角田山妙光寺インフォメーション

## 誌上法話

小川良恵



法華經信解品第四

## 仏法への「信」と「解」

「長者窮子の喩え」

信解品では「長者窮子の喩え」を通して、ど  
のように『法華經』の教えが理解されていったの  
かが説かれています。

それはこのような話です。ある長者が、生き別  
れた幼い我が子を50年かけて見つけ出しました。  
しかし、すっかり落ちぶれた息子は、立派な身な  
りの長者を父親とは理解できません。迎え入れよ  
うとしても、息子は父親の威厳ある姿を怖がって  
逃げてしまいます。そこで父親は一計を案じ、ま  
ずは屋敷の下働きとして息子を雇い、自身もまた  
ぼろ檻樓をまとい、同じ下働きのふりをして、息子に  
近づきます。少しずつ出来る仕事が増えることで、  
息子の卑屈に陥っていた心は成長し、親子は次  
第に心を通わせるようになりました。やがて死期を  
悟った長者は、息子に全てを明かし、財産を譲り  
ました。

### 成長を待つ

ここでいう「長者」とは御釈迦様のことで、「息  
子」は我々衆生をさしています。6世紀に活躍し  
た中国の高僧・天台大師智顗によれば、御釈迦

様は悟りを開いてからまず『華嚴經』を説きました。  
しかし内容があまりにも難しく、誰も理解すること  
ができませんでした。そこで御釈迦様は、衆生の  
レベルにあった教えを与え、少しずつ成長をさせる  
こととし、最後に最も深遠な『法華經』を明かさ  
れました。その経過を表したものが、「長者窮子  
の喩え」なのだと思います。

### 仏法への「信」と「解」

信解品の「信解」は、ただ盲目的に信じること  
ではありません。理解をした上での「信」が大切  
です。仏法への「信」と「解」が揃って、はじ  
めて仏に成ることが出来るとの教えが込められて  
いるのです。

また一方、この物語の重要な点は、どんなに弱  
い人でも如来に成ることができるということにあり  
ます。時間はかかるかもしれませんが、成長して  
「解」に至ればすべての人々が成仏できるという  
のです。『法華經』の中で繰り返し説かれる「一乗」  
の教えが、ここにもあります。『法華經』が最も深  
遠な經典とされる理由となる教えです。



## ヤブツバキの古木

境内の松、櫻、銀杏といった古木は、妙光寺のお宝と言える。今回は3月

が見ごろのヤブツバキを紹介する。鐘楼堂脇に、見事な赤い花を咲かせている。ツバキは園芸品種が多いが、日本に自生する野生種は、ユキツバキ・ヤクシマツバキと合わせたこの3種類だけで、その素朴な姿が好まれている。

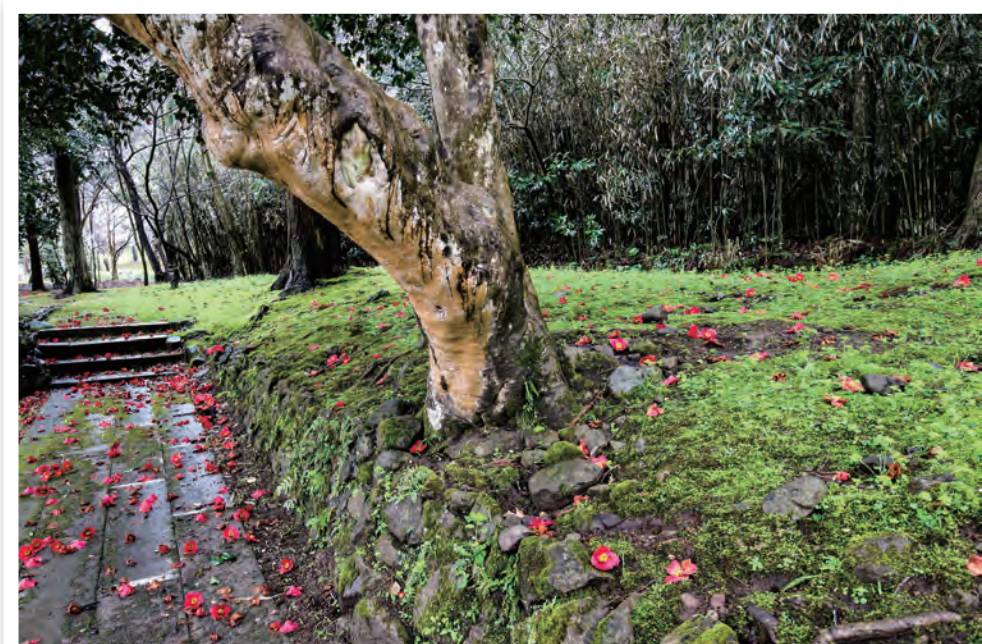
「県北には古いツバキの森もありますが、これだけの太さの木は珍しい。県内でも有数の古木と言えると思います」とは、県森林研究所に以前お勤めの檀徒さんの言葉。成長の遅い木だが、幹回りの2倍という説を採れば樹齢220〜230年くらいになるうか。

ヤブツバキは東北地方以西の暖地に生息し、日本海側では寺と神社の

境内に古木が多い。これは宗教に関わる人が各地に植えて、聖地を作っていた人為的な歴史があるという説がある。確かに角田浜は日本海を北上する対馬暖流の影響から比較的

温暖で、ツバキの生長にも適している。また裏手が熊野神社なので古くからの宗教的聖地でもある。

ツバキの花は花びらから散るのではなく、花の形のままポトリと落ちる。それを「首が落ちる」と武士に嫌われたと言うが、それは幕末以降の流言にすぎないらしい。花の少ない春先の境内で真っ赤な花が地面に散った光景はなんとも美しく、これだけでも妙光寺のお宝といえる。近年は写真愛好家が訪れて、カメラに収める姿が多く見られるようになった。



## Q 「位牌」には、 どんな意味があるのでしょうか？

位牌は、実は中国儒教の文化です。儒教ではあの世は苦しいの多い世界であるとされ、故人はいずれ現世に戻ってくるとされていました。しかしそのためには、魂を受け入れるための器が必要です。その器として、元々は死者の頭蓋骨を祭壇に飾っていたそうです。やがてそれは、名前や役職を書いた札となっていきました。これが位牌です。位牌の頭が丸く作られているのは、頭蓋骨だった名残のようです。

日本にも、仏教が伝わる以前から「ご先祖様」を祀る信仰がありました。「位牌」は鎌倉時代に伝来し、江戸時代以降に一般に広まりました。

現代では、「仏壇」も「位牌」も不要と考える方もおります。亡くなられた方を迎える場所、手を合わせる心の拠り所として、大切にしていきたいと思います。